

会議結果報告書

平成27年11月16日

会議の名称	第5回志木市総合振興計画審議会
開催日時	平成27年10月21日(水) 14時00分～15時20分
開催場所	市役所4階 全員協議会室
出席委員	西川 和人会長、木下 良美副会長、 吉川 義郎委員、神山 邦明委員、金子 幸一委員、 大木 勝臣委員、為井 俊充委員、渡邊 一俊委員、 持田 直人委員、金谷 慶國委員、近藤 訓委員、 清水 一敏委員、長島 とも子委員、長谷 美幸委員 (計14人)
欠席委員	河野 芳徳委員、浮田 朋美委員、松浦 優子委員 (計3人)
説明員職氏名	【政策推進課】 松永企画部参事兼政策推進課長、外立政策推進課主幹、 伴政策推進課主任、 【ランドブレイン株式会社】 加藤 敬昭、石村 壽浩、 (計5人)
議 題	1 開会 2 審議事項 (1) グループワークのまとめについて 3 その他 4 閉会
結 果	議題2(1)の審議事項について、事務局から審議会委員に説明し、審議及び質疑応答を行った。 (傍聴者2人)
事務局職員	松永企画部参事兼政策推進課長、外立政策推進課主幹、 伴政策推進課主任、星野政策推進課主任、吉田政策推進課主事

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会

- ・ 議事に入る前に、傍聴者の有無について確認を行った。
→傍聴希望者あり。
- ・ 会議を公開としてよいか諮る。
→全会一致で承認、傍聴者が入室する。

2 審議事項

(1) グループワークのまとめについて

外立政策推進課主幹よりグループワークまとめについて説明後、質疑応答を行った。

(委員)

事務局の説明を聞く限り、矢印の先は現状で実施しているというように聞こえたが、グループワークでは、不足している部分について議論しており、現状に当てはまるからこのままで良いという訳ではない。その他に何か必要なのではないか、また、さらに拡充すべきということであるため、ご検討いただきたい。より取り組むべきであるということを議論したが、事務局でまとめた資料では現状の事業が当てはまるという資料になっており、解離していると思われる。

給食費については直近では実施できないとおっしゃっていたが、なぜ行わないのか疑問である。

また、「ハード（インフラ）整備も必要だが、それを活かすソフト（事業）が重要」と記載があるが、志木市はハード面が不足しているという議論がなされたため、まったく逆の内容となっている。まずは、しっかりとしたハード整備を行い、そのハードを使うために何をすべきか議論することが必要であるという意見だった。足立区のギャラクシティでは、市民ホールに子どもの遊べる空間を設けて、独創的かつ先進的に取り組んでいるため、参考にしていきたい。

(事務局)

矢印で書かれているところは現在市で取り組んでいる事業を当てはめた方が分かりやすくなると考え記載した。四角で囲まれたところについては、皆さんから頂いた意見の中で、新たな視点からの意見であったため四角で囲い追

記したものである。

(会長)

皆様のご意見を一応網羅しているが、確かに物足りなさもあるため、ご意見をいただきたい。

(委員)

先ほどの意見は、これで終わりではいけないということだと思う。

(事務局)

全てを網羅することは難しいが、頂いた意見の中でヒントはいくつもあると感じている。公園についてご意見があったが、場所も限られているため、現在の資源をより活用できるよう具体的に議論していきたい。

給食費の無料化については、どこの自治体でも実施したいことであると思うが、取り組むことが難しい理由として、やはり財政状況が関係してくる。大きく税収が増加しない限り、予算額はあまり変化せず、人口が増加すると学校や保育園、道路などの整備が必要となり、なかなか思うようにできない。

(委員)

今の話では、本市にはあまり人数を増やさない方がよいということなのではないか。この戦略においても、ターゲットを絞って財政支出が増えないままで、他の事業に取り組めるようなことを考えるべきなのではないか。突然この話をされて、今までの議論は何であったのかとってしまう。

(事務局)

日本全体で人口が減少していくことが予想されており、志木市も例外ではない。今あるインフラを活用し、極端に人口が減少しないよう現状を維持するために、最低限のまちづくりが必要である。

直接的な補助事業はインパクトはあるが、市全体の予算状況を勘案すると厳しい。民間とは異なり、高い料金を支払えば良いサービスが受けられるということが税には当てはまらない。

様々な意見はあると思うが、皆さまからいただいた意見を基に取り組みに着手していきたい。決して、皆さんの考えを切り捨てるという訳ではなく、出来る限り参考にさせていただき、まとめていきたいと考えている。

総合振興計画審議会は、素案に対して、皆さんから意見をいただくが、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、皆さんで練り上げて、作り上げたものを庁内で協議することとなる。

(委員)

予算が限られているのであれば、市民による優先順位を決めることが重要な

のではないかと。出来るものからやると、予算がなくなってしまうこともあり、そうすると本末転倒となってしまう。無理かもしれないが、市としてはこれが重要であるということを示す必要があるのではないかと。

(会長)

戦略について優先順位をつけることが出来るかわからないが、骨子を提出する際に事実としてどのような議論を行ったのかを示すことは可能である。確かに限られた資源の中で、どこから取り組むのかという議論は必ず必要になる。行政だけで行っているとどうしても不透明な部分が出てしまうが、我々が議論することで新たな目線が出来たと思われ、それがプラスになると考える。

(委員)

以前より、検証の必要性を述べてきているが、出来れば10年～20年後に検証をすることも重要である。

また、「コミュニティスクール」について、現在の放課後子ども教室などが実施されているが、ここでの意味合いは異なる。

3 その他

4 閉会